

## 年度末需要は振るわず。組合からの脱退が増加

3月の情報連絡員報告によると、対前年比の景況動向は製造業・非製造業とも依然として大幅な悪化傾向を示しており、景況DI値はマイナス80を超えている。

具体的な業況については、多くの業界において、頼みとしていた年末需要が期待はずれに終わったとの報告が相次ぎ、消費が冷え込んでいく実態をうかがうことができる。又、倒産・廃業・組合脱退についての言及も目立っている

【製造業64人、非製造業86人、計150人の集計】

### 各項目のDIの動き (前年同月比)

	全 体	製造業	非製造業
売上高	😞	😞	😞
在庫数量	😞	😞	😬
販売価格	😞	😞	😞
取引条件	😞	😞	😞
収益状況	😞	😞	😞
資金繰り	😞	😞	😞
設備操業度	😞	😞	—
雇用人員	😞	😞	😞
業界の景況	😞	😞	😞

😊 …増加、上昇、好転

😬 …不変

😞 …減少、低下、悪化

## ✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
鉄鋼・金属	電線製造業	ユーザー産業の海外シフトが見られ、空洞化の進展が懸念される。政府は国内産業の保護対策を講じてほしい。
	建築物製造業	大型の景気対策を早期に実施してほしい。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	プラスチック材料の値下策を検討してほしい。
小 売	豆腐小売業	中国製食品の問題もあり消費者の国産品への回帰が見られる。休耕地を活用するなどして国産大豆の生産量の増大を期待する。
商店街	赤 坂	古くから土地に根ざし、地道に営業している事業者が存続できる環境を整えてほしい。
サービス	自動車整備業	スクラップインセンティブ（旧式車の廃車・代替車購入促進策）等の施策に期待する。国・都とも代替奨励金制度の早期実施を望む。
	複 写 業	中小企業への金融支援拡充を望む。また、3月の売上は上昇したものの、年度末特有の一過性のものであり、通年で売上を確保できるよう公共事業の拡大も併せてお願いしたい。

平成21年  
3月

# 業 界 の 声

製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	麺類製造業	業界内で安売り業者が出現し、シェアを奪い合う状態となっている。
	中華麺製造業	廃業する事業者が増加。また、商品のラインアップを減らしている事業者が多い。
	製粉業	輸入小麦の政府売渡制度の改定が検討されているが、業界の意見との隔たりは大きい。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	昨年7月以降、毎月の売上げが前年比20%減少という状況が続いている。また、業界では6月の第3日曜日を「父の日・ネクタイの日」と定め販促活動を行っているが、今年も苦戦することが予想される。
	帆布製品製造業	決算期である3月の売上は前月より上昇したものの、例年に比べると大きく落ち込んでいる。組合員個々の体力勝負といった様相を呈してきており、景気が回復するまで持ちこたえられるか危惧される。セーフティネットの融資を受けているが、今後さらに業績が悪化した場合でも融資を受けることができるのか気がかりとなっている。
	洋服製造業	景況是最悪。大手取引先の倒産が噂されており、下請け業者は恐々としている。
	ニット製品製造業	現状では受注の残りがあまるものの、6月以降の注文が全く入っていない状況である。さらにニット関連大手の経営危機が伝えられており、業界は深刻な不安感に包まれている。
木材・木製品	建具製造業	本年は住宅着工件数が大幅に減少する見通しであり、先行きの見えない状況が続く。
紙・紙加工品	包装材料製造業	主力の段ボールを含む包装材料について値下げせざるを得ない要素が山積しているが、円高を要因とする輸入品の価格下落の影響が大きい。また、3月に入り石油価格の上昇傾向も不安定要因となっている。
印 刷	印刷業	平成20年度に脱退した組合員数は111社。このうち倒産6社、廃業20社と非常に厳しい状況が続いている。
		昨年11月からの売上げ不振で、廃業による組合脱退が2社発生した。
化学ゴム	塗料製造業	昨年10月より大幅な前年割れの状況が続いている。業界では21年度の需要を前年比7~8%減と予想している。
	プラスチック製品製造業	注文が大幅に減少。先の見通しが立たず不安な状況が続く。
	ゴム製品製造業	自動車・家電関連は依然低迷しているが一部に明るい兆しも見えている。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	3月は前年比で売上が半分以下となった組合員もあり、非常に厳しい状況となっている。 十数年前まで期末期は活況を呈していたが、昨今は3月半ばで工事が終了している。官公需の減少が公共工事に依存してきた業界を追い詰めている。
	生コンクリート製造業	20年度は期の後半において売上は下げ止まりつつある。三多摩地区、城東地区は相変わらず厳しい状況にある。
鉄鋼・金属	電線製造業	3月の需要動向は通信、電力、電気機械、建設用電線等全ての分野で需要が減少した。
	金属熱処理業	操業度の大幅な低下は改善されていない。業界は鍛造業・素形材業と共同で経産省・厚労省に対し支援を要請している。
	鋳物製造業	年度末を迎えても受注量は相変わらず低迷している。この状況下で組合員の雇用関係の助成金申請が増加すると思われる。
	鍍金加工業	受注量の減少が依然続く。1~3月の受注量は前年比26%の減少。事業継続が懸念される状態にあり、事業の休止や廃業する組合員が現れている。組合に対する支払が滞る組合員も発生しているため、組合の財務内容も悪化している。
	建築金物製造業	住宅着工件数が回復しない限り、景況の復活は望めないが、未だその兆しは見えない。
	ダイカスト製品製造業	3月末で組合員数が3社減少した。
一般機械	木工機械製造業	朝から一本の電話もかかってこないと嘆く商社の声があった。
	写真製版機製造業	例年売上が伸びる年度末であるが、今期は落ち込んだままとなっている。印刷料金が低下しているため、印刷材料の値下げ圧力も高まっている。
その他の製造	金庫製造業	給与削減を行う企業も出始めているが、20年度は脱退組合員は発生しなかった。
	スポーツ用品製造業	日本チームのワールドベースボールクラシック優勝は、久方ぶりに業界にもたらされた明るいニュースであった。国民の盛り上がりスポーツ人口の増加につながることを切に望んでいる。
	ガス圧接業	決算期の追い込み受注が無い。稼働率の低下が続き、企業の経営状況は厳しい。
	鉛筆製造業	生産数量は前年比の73%まで減少している。
	精密工具製造業	売上半減、資金繰りの悪化といった厳しい状況が続いている。

平成21年  
3月

# 業 界 の 声

非 製 造 業		
集計上の 分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	鶏卵卸売業	業務用の売上減少が激しい。
	眼鏡卸売業	時計・メガネは販売価格が下がっているにもかかわらず動きが鈍い。宝飾品については地金が高値で安定しており、販売価格が下げられないため極めて厳しい状況にある。
	化粧品卸売業	組合加入が1社、脱退は4社。出資金が減少し組合の財務内容は悪化。上部団体においても脱退が相次いでいる模様。
	電線卸売業	銅電線の需要予測が日本電線工業会より発表された。2008年度は前年比11%減となる中で、2009年度の予想では前年比7%減との厳しい内容となった。
	鮮魚卸売業	天候等の影響で鮮魚の流通量が減り、高値が続いた。
	セメント建材卸売業	共同購買事業、3月実績は前年比62%。会社整理により1社廃業。平成20年度の組合員動向は加入1社、脱退13社。
	食肉卸売業	低価格品から高級品まで全てにわたり、売上げ不振が深刻化している。
	木材卸売業	住宅着工件数の減少が続き、荷動きは相変わらず悪い。
	紙卸売業	メーカーの生産調整による値上げと需要の減少の板挟みに遭っている。
	玩具卸売業	定額給付金への期待が高い。現在はこの給付金に光明を見出すことしかできないのが現状である。
	食料品卸売業	年度末を控え資金繰りに苦しむ組合員が増えている。
ニット製品卸売業	金融機関の貸出枠の引き締め傾向が強まり、企業倒産につながるケースが増加している。	
小 売	豆腐小売業	原材料価格が高値で推移している中、小規模店舗が値下げを実施するのは困難であり、大手の量産品に押される状況が続く。厳しい経営環境下で後継者の確保・育成がままならない。
	木材小売業	木材・合板等、相場的には底打ち感が出てきたが、売上は未だ低迷状況が続いている。春期の需要に期待をしている。
	古書籍小売業	本年に入って組合員が2名減少。景況は今後さらに悪化することが懸念される。
	自動二輪小売業	昨年の、都内における二輪駐車違反件数は43万件でワースト1位である一方、二輪の駐車違反件数が年間ゼロもしくは1件という県が27もある。都内でも違反件数は減少となったが、これはユーザーの二輪離れの結果と思われる。都心の二輪車がねらい打ちされている感があり、業界では売上げ不振の原因の一つと見ている。
	酒 小 売 業	過当競争で市場が乱れている。
	化粧品小売業	年度末を迎え、廃業組合員が発生している。スーパー等の安売り攻勢の影響が現れている。
	電器製品小売業	入学・就職シーズンを迎え、地域店においても前月より売上は増加した。また、地域店は地元の利を活かした提案型営業を実施することで火災報知器等の受注増加につなげている。しかしながら、全体的な買い控え傾向は依然続いている。洗濯機、冷蔵庫、小型液晶テレビが増加傾向。エアコンは減少。
	中古自動車小売業	中古車販売は上向き傾向にあるが、販売店は売上の好不調による二極化が進んでいる。顧客のデータ管理やネット販売等、IT利用に長けた販売店の好調さが目立つ。
	衣料品小売業	気温の変動が大きすぎたため、春物アウター品の売上が伸びず、前年比で大きく落ち込んだ。
	文具小売業	需要期であるため普段と比べ売上は多かったが、前年比では20%強、落ち込んでいる。
	自転車小売業	販売価格が上昇する中、天候不順等の影響で売上は落ちている。収益状況は大幅に悪化。
家具小売業	全般的に業界は収縮傾向にあり、組合の存続についても議論が出始めている。	
ペット小売業	春秋の彼岸に組合が行う鳥獣供養祭への参加者が半減している。組合員数が減少する中で、残った組合員からも商売の継続が難しい旨の声ばかりが上がっている。	

商店街	銀座	2月より売上は多少増加したが、本年も耐える年になることが予想される。
	目黒	販売価格は前年同様であるが、売上高、収益その他、状況は全て悪化している。
	秋葉原	フレッシュマン需要は堅調であるが、中心となるテレビは20型以下のサイズが主流で単価下落が続いている。入学式用のデジカム・ビデオカメラの動きが良くなっている。
	赤坂	飲食店の売上げ状況が依然として低調。
サービス	自動車整備業	自動車販売数量の減少が仕事量の落ち込みにつながっている。
	クリーニング業	クリーニング料金は地域によって格差が大きいが、丁寧な仕事に見合った料金を取れる地域では、さほど景気に左右されることがなかった。しかし今回の不況下ではそうした地域でも目に見えて売上が減少しているとの声を聞く。
	飲食業	年度末をもって廃業する組合員の増加が著しい。手の打ちようが無い状況にある。
	廃棄物処理業	廃棄物量が減少したことで、元々低い廃棄物処理業務の採算性をさらに悪化させるとともに、再資源化物の価格暴落が追い打ちをかけている。
	複写業	年度末需要により官公庁、民間とも売上高は多少増加した。しかしながら収益状況は依然厳しい。
運送	貨物自動車運送業	例年3月は荷動きが活発になる月であるが、今期は前月と同程度の扱い量にしかならなかった。現在組合員は経費節減に努め、手元資金で持ちこたえつつ業況の回復を待っている。業界全般としては倒産件数が増加している模様。
	港湾運送業	外国貿易コンテナ取扱い個数は、輸出入合計で前年比10%程度減少した。1月の東京港における貿易額実績は前年比37%の減少となった。
建設	内装工事業	組合員各社とも売上減少が続く。廃業及び経費節減を理由とした組合からの脱退が相次ぎ、今期の脱退件数は25社を数えた。
	鉄筋工事業	組合員の平均稼働率は70%程度。従業員を交替で休ませる組合員も現れた。